

あじさい

石川県ことばを育む親の会

第 57 号

2012 年 6 月 10 日発行

発行責任者 大森克成
〒921-8845

石川県野々市市太平寺 2-9

TEL/FAX (076) 248-6303

E-mail/aihuru@po4.nsk.ne.jp



イオン
四日市
トキヤ



第三十七回全国難聴児を持つ親の会代表者研修会・総会

香川大会に参加して

松井 貴子

平成二十四年三月二四日、二五日に香川県高松市で第三十七回全国難聴児を持つ親の会代表者研修会・総会が開かれました。

大会テーマ「難聴児(者)のみらいのために」は教育、環境問題を聴覚障がいの子どもを持つ親としてどのように考え行動できるかを一緒に考えようとの思いから開催されたそうです。

開会式後、香川県難聴児への取り組み報告がありました。

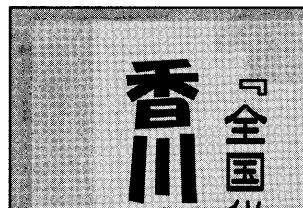
香川こたま学園副園長、高松市大野小学校特別支援教育担当教諭、香川県立豊学校教諭がそれぞれ発表されました。香川県では、一人の難聴児の為に地域の学校に難聴児教室が設立

される事です。羨ましい・・・。良い事ばかりでもなく、こだま学園や聾学校と繋がっていないお子さんもいらつしやるそうです。それを聞くと、隣の芝は青く見えたのかしら??と思うのです。

二日目、記念講演は香川大学准教授 坂井 聡氏「難聴児(者)社会の自立に向けて」タブレットPC・スマートフォンの可能性」でした。障害者の権利条約から障害者基本法、聴覚障害児への情報の取り方や伝え方、とりあえず始めてみましょうとか、副題のタブレットPC・スマートフォンの可能性と幅広く盛りだくさんでお話下さいました。

金沢大会とは違い、二日間と

は森と緒往時電旅つうし声、非たてを加太女漸て今も



三月二十四日
日(日)香川県吉
ルにて第三十七
を持つ親の会代
会にこの度、参加
した。

当初は、四国の
催に遠方なので
めらいましたが、
興味もあり、最終
ことに決めまし
一日目は、難臨
みについて、三人
それぞれ発表が
初めに、香川
森千代美先生よ
取り組みについ
育内容や現在の
題などのお話が
次に、高松市

近になりつつあるスマートフォンやタブレットPCを使い
いろいろな情報を取り入れ、
それぞれの機能をうまく利用
すれば、今まで困難と感じてい
ことも改善できる可能性も
ると知り、まだ、スマートフ
ンなどを持つてない私ですが
これからのためにも必要な
アイテムの一つだと感じ、今後
検討していきたいなと思い
ました。

今回、二日間にわたり、と
も有意義な時間を過ごすこ
ができ、参加できたことを本
に感謝しております。どうも
りがとうございました。

中学部入学の 節目に思うこと

浦田 泰子

本棚の「わが指のオーケス
ラ」三冊分のスペースがぼつ
り空いていた。

夕方、目を真っ赤にはらし

つていた。
長女を授かり、聴覚障害に気が付いて割と早い時期に、この「わが指のオーケストラ」に出会った。

市立ろう学校の高橋校長の対極として、口話法の西川吉之助が描かれていた。ゆかりの

近江八幡の地に育ったはま子にわが子を重ね、私は吉之助になりた

いと思つた。

今、振り返つ

て思うが私は、

吉之助になれた

ただろうか。

郷土の偉人には

恥ずかしい

くらい足元に

も及ばない。私は子供から手話を

を取り上げたり、聴覚障害の仲間との交流を絶つことはできな

かつた。

人工内耳装用で、ある程度の聴力を保障して、地域の小学校に通わせたが、本人いわく大変

しんどかったそうだ。必要ない、と切り捨てたかった手話は、地



域な座た数

習と一會と来す

117

いざなる相嘗具の教行一智

社小

会員の牧学子さんが始めました

難
誌
に
今
昨
聴
取
歩
と
の
新
断
を
ク
ラ
マ
ケ
テ

を てな定良県 し軽 まい度県

が人ン
開全ラ六

教室だより

小松市立芦城小学校
言語障害通級指導教室

「ことばの教室」 1・2

田中 ユミカ

芦城小学校には、通級指導教室が、三教室があります。

その内、ことばの教室は二教室で、五月末現在で四〇名の児童が通級しています。

小松市で通級指導教室があるのは、現在のところこの芦城小学校だけということで、市内二十五小学校の内二十一校からと広く通って来ています。

平成二十二年竣工の真新しい校舎の正面玄関を入ると、右手に他校通級児童用の下足箱があり、左手廊下から日当たりのよい階段を二階へあがると、正面が通級教室の入り口です。ソファや本棚のある共通の待合室から、子どもたちはそ

れぞれの教室へ入ります。

子どもたちの通級理由の内訳は、構音障害の二四名、難聴一名、吃音七名、その他言語やコミュニケーションに困難さを持つ子が八名となっています。

口の体操や音読、聞き取り、かなや漢字の書字、お話タイムや日記の指導…。

子どもたちがそれぞれにちよつと苦手なことに向かって頑張っている間、待合室では送迎の保護者が本を読んだり編み物などをしたりしてすごされています。あえて用事をつくり、待合室を離れ、子どもの自立を促そうとする方もあります。

教室からは、しりとりやすごろく：ゲームで盛り上がった声も聞こえます。小集団学習ではお互いぎこちなかった子どもたちが少しずつ打ち解け、関わり合う様子も見られます。

お母さん方が多かったです。最近はお父さんの姿も増えてきました。おじいちゃんの車



で、お通級生、お同士のよう、家族のフーを利いませ

授、の方、く、ゆっ、申し、籍学、供た、族や